



# つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを!

当事者として、支援者として

NPOクラブスタッフ 石井悠子

震災が発生した当初、避難は短期間で終わり、すぐに浪江町に戻り、3世代10人家族で再び生活できると思っていました。子どもたち(6歳、4歳、2歳)はいつも「いつ帰れるの? まだ?」と何度も尋ねていました。私自身、3世代の賑やかな暮らしから核家族での生活になったこと、さらに「生活音がうるさい」と階下の方から苦情を受けたことで、子どもたちを叱りつけることが増え、早く帰りたいという思いが募っていました。

そんな折、浪江町の広報紙に併載されていた「なみえのこころ通信」の取材のため、NPOクラブのスタッフの訪問を受け、避難生活での大変さを初めて話す機会がありました。それまでは「放射能がうつる」との嫌がらせを受けたというニュースを耳にし、避難者であることを隠して生活していたため、誰かに打ち明けることができませんでした。

その後、3年間にわたり浪江町復興支援員として活動し、千葉県内に避難している方々に会い、話を聞き、悩みに対応する役割を担いました。この経験を通じて、県外避難者の声を浪江町に届ける「かけはし」になりたいという思いが強くなり、浪江町町会議員として1期務めました。復興支援員や町会議員としての活動を通じて、多くのことを学ぶことができました。

避難生活を送る中で、数多くの困難に直面しましたが、NPOクラブのスタッフとして働く経験は、私にとって大きな財産となっています。避難当時の私のように、話したいけれど話せない方、避難先の状況に不安を抱く方、震災から14年が経過した今もなお様々な悩みを抱えている方が多くいらっしゃると思います。これからも、心の復興に少しでも役立つよう努めていきたいと考えています。

## 忘れない東日本大震災 —あれから14年—

3月11日～17日

そごう千葉にて 福島県の写真パネル展を開催

東日本大震災から14年。今もなお、自宅を離れ、遠く千葉で避難し暮らす人たちが1,267人(令和7年2/1現在、復興庁ホームページより)。被災地や避難者への関心が薄まりつつある中で、震災直後や復興・復興状況についての写真掲示や千葉県内での支援団体の活動を紹介します。千葉県内で暮らす人々への理解と支援につながっていくことを願い開催しました。

NPOクラブでは2016年より福島県からの委託で、「福島県県外避難者相談センターちば」を開設。千葉県内に避難されている方たちの不安や悩み事、今後の生活に向けた相談対応や避難者同士の交流の場の開催など、さまざまな活動を行ってきました。

「避難元に帰れるなら帰りたい、でも津波で家が流されてしまった」「帰るために避難元の住宅をリフォームしたが病気になり帰ることを断念した」「福島弁を気兼ねなく話したい」「避難先自治体の対応がいいので助かっている」などの話を聞きます。避難先で周囲の人に見守ってもらえることで生活の不安が少しでも解消されたらと思います。



そごう千葉店での写真パネル展



福島県から千葉県に避難されている方向けに押絵体験交流会を開催

## ◆よつかいどう こども万博 テーマは「こどもまんなか」

こども食堂、居場所、こども縁日など四街道のこども支援団体が大集合!

日時 5月11日 ①10:00～14:00

場所 四街道市文化センター ※おはしとお皿をご持参ください

### ★「夢みる小学校 完結編」4回上映

5月11日 ①10:00-12:00 ②13:30-15:30 文化センター 301号室

5月13日 ③10:00-12:00 ④13:30-15:30 みんなで地域づくりセンター

参加費 大人500円 18歳以下無料

申込み QRコードからお申し込みのうえ、当日現金でお支払いください。

主催 四街道市みんなで地域づくりセンター 協賛 印旛市郡四街道地区医師会



## ◆一度は聞いておきたい!「市民活動の基礎講座」

- ①市民活動の社会的な役割(地域課題、公益活動、ボランティア活動)
- ②市民活動の運営資源(人、情報、ネットワーク、場所、モノ、5つの資金)
- ③市民活動の法人格(NPO法人、一般社団法人、株式会社との違い)

日時 ①5月20日 ②6月24日 ③7月8日 10:00～11:30 (終了後、個別相談もできます)

場所 みんなで地域づくりセンター

対象 地域で活動をしている人、これから始める人、関心のある市民(各回10人程度)

※1回ずつの申し込み・参加ができます。 ※参加費 無料

## ◆第26回 福祉施設・紹介販売フェア「大きなテーブル」

地域の福祉施設でつくられたお菓子・パン、新鮮野菜やクラフトなどが販売されます  
お買い求めいただくことが障がいのある人の就労、自立へとつながります

日時 5月31日 ①10:00～14:00 (少雨決行)

場所 四街道市文化センター 前広場及び展示ホール

※マイバッグ・ゴミ袋ご持参ください

主催 大きなテーブル実行委員会 共催 公益財団法人四街道市地域振興財団



問合せ・連絡先 四街道市みんなで地域づくりセンター TEL 043-304-7065 E-mail info@minnade.org

## ◆「ならしのプロボノ2025」 令和7年度習志野市市民協働型委託事業

市内の団体が、運営上の困りごとに社会人ボランティアのサポートを受けて取り組むプロボノプロジェクトを今年も実施します。

・市内団体向け「ちょっと困りごと相談会&プロボノ説明会」7/12 ①、7/17 ② プラッツ習志野

・社会人ボランティア 募集説明会(市外参加者も可)8/3 ③ Zoom、8/23 ④ プラッツ習志野

問合せ NPOクラブ下記連絡先

昨年度の取り組み内容はこちら⇒



## ◆第25回 NPOクラブ定期総会のご案内

日時 6月14日 ①13:30～15:00: 定期総会 ②15:15～16:45: みんなで話そう

会場 幕張公民館 2F 講習室(千葉市花見川区幕張町4-602) JR幕張駅から徒歩5分、京成幕張駅から徒歩2分

※一般の方の参加も可。事前に事務局までご連絡ください

＜編集・発行＞ 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

E-mail: chiba@npoclub.com URL: https://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npo-club1

Facebook「NPOクラブ」で検索 X「X NPOクラブ」で検索

・運営会員21名 賛同会員100名 発行800部 会員・県内市民活動支援センター・自治体等にお届けしています。



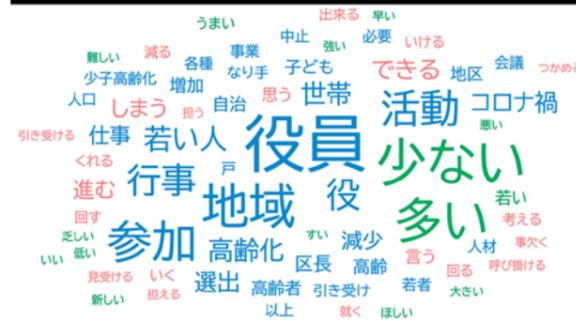
# 2030年代の千葉市を見据えて、地域づくりに求められる進化 総働で小規模多機能自治を進めよう!

講師：IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]  
代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人 **川北 秀人** さん



少子高齢化時代を迎え、1人暮らし世帯が増加する中、地域の「つながり」「支えあい」の大切さが言われています。一方で、負担感や必要性を感じられないといった理由で、町内自治会の加入率が低下しています。地域の暮らしを下支えしてきた町内自治会の活動をどうするか。高齢になっても、障がいがあっても安心して地域で暮らし続けるために、私たちができることは何か、本セミナーを皮切りに、自分事として考え、実行に移していく仲間を広げていきたいと思えます。

「困っていること」中津川市内 自治会長さん方のご回答 23年5月



## 地域づくりの現場から寄せられる声など ・なぜ難しくなった? 今後?

- ・関心・参加を高めるには?
- ・負担集中や負担感の高まり。
- ・自治会と地域運営組織?
- ・スマホ・SNSの活用?
- ・防災?
- ・個人情報の取り扱い?
- ・若者の参加・参画・育成?
- ・ボランティアでは限界。
- ・空家・定住対策?
- ・役員の固定化、担い手の育成。
- ・事業・組織の見直し?
- ・外国人との交流・共生?

まちの力は、関係の密度がつくる  
人口密度より人「交」密度!  
元気な地域は、人数ではなく姿勢が違う

- ・町(区域)でも街(建物の集まり)でもなく、  
「まち」:人と人との関係 イベントが足りなかった時代はイベントを、  
支え合いが足りない時代は、支え合いを
- ・住み続ける地域の未来のために、本当に大切なことを実現できるよう全力を尽くす。  
出し惜しみしない、できないフリしない、あきらめない、  
「誰かがどうにかしてくれる」なんて甘えない

自治とは、自分(たち)で決めて、  
自分(たち)で担うこと。  
日本の地域・住民には、担う力はある!  
問題は、決める力の弱さ。  
理解して動くよう、決めるためには、  
理解できる場・機会と、材料が不可欠!  
手間も時間もかかるけれど、  
世の中も地域も変われば、  
これまでと違う判断と取り組みが不可欠。

## 千葉市の人口・世帯構成の特徴

- ①人口の総数・子ども・若手の減少が本格化  
+ 高齢者率は全国平均より5年遅いだけ  
・前期高齢者も団塊jr除き減少、85歳以上は倍増  
・独居4割、地域活動負担3.5倍に  
→見直さないと負担過重 行事・会議は重ねる&間引く
- ②残存率:10歳未満高め、60歳以上高い  
⇨40代後半-50代 低い、男性>>女性、  
10歳未満&20代後半-50代 直近5年急低下  
→若者&女性の気持ちと力を活かす地域づくりを!
- ③後期高齢者のみ世帯は10軒に1軒→8軒に1軒強に  
+後期高齢者独居率 高め、85歳以上1/25→1/12へ  
→健康づくり・福祉・防災・生活支援は一体で!

川北秀人さんセミナー資料より抜粋

これまでの20年とこれからの20年は違う。延長線上では考えられない。「命と暮らしを守ること」を自治会の目的として活動を整理できたらイネ!



2025年7月募集開始のちばし地域づくり大urs校  
では、「町内自治会コース」を新設します。

詳細はこちら➡



## セミナー内では、千葉市でがんばっている町内自治会、地域運営委員会の活動を紹介しました。

### 「御浜下りを千葉市みんなのお祭りに」

千葉市海まつり協議会 鈴木年樹さん  
海まつり協議会は、寒川神社の祭事「御浜下り(おはまおり)」を氏子や町会の負担とならない形で後世に継承することを目的として、2021年に設立された任意団体です。海浜都市・千葉市の忘れ去られた歴史・文化を掘り起こし、郷土千葉への愛着を育む取り組みを行っています。昨年には、「さんばしまつり」と同時に「こども御浜下り」を開催。当日は子ども約110名が参加し、生まれ育った街の海辺に足を浸しながら地域と一体になって楽しみました。前日準備には約45名が参加し、会場となる海辺周辺の草刈りや掃除を実施。「うみ千葉」の文化の継承に貢献しています。



### 「町内会ICT化プロジェクト」

星久喜町南部町会 北澤賢一さん  
星久喜町南部町会は262世帯15班程の規模で星久喜中学校区の中で南東に位置する町内会です。町内会の仕事ワースト5として、回覧板、集金、イベント出欠確認、会館管理、会計を挙げ、これらをICT化で解決する事業を実施しています。講師を招いてのICT講習会や町内会の役員、協力員での勉強会を重ね、LINE公式アカウントを作成。回覧板で周知し、友だち登録が100人を超えたところで電子回覧板を配信。その後、友だちは125人まで増加。今後はICT化により情報格差が生じないように、また、さまざまな世代が参画できるよう取り組み、回覧板については紙と電子を併用したハイブリッド型で運用していきます。



### 「認知症カフェ和居和居」

鴨下之彦さん  
地域の人々が顔見知りになり、つながりを深めたいという思いから本町公園内の集会所で認知症カフェを月1回開催。認知症の方やご家族のほか、介護や福祉、医療の専門家を交えて、気軽におしゃべり



する場を提供しています。「減塩」や「お口の健康」などのセミナーも開催しています。千葉市の「健康教室」への参加をきっかけに千葉市健康課とのコラボ企画が成立。その他にも、「子ども倶楽部」や他の町内会のギター演奏もカフェ和居和居の集会所で開催予定です。異世代との交流や、他の町内会との交流も含め、地域の居場所となるように活動しています。

### 「防災でつながる地域づくり」

高洲第四小学校避難所運営委員会 大原晃二さん  
美浜区高洲地区は京葉線稲毛海岸駅を中心に、小学校3校と中学校1校、周囲に集合住宅や戸建住宅が広がるエリアです。地域の避難所運営委員会では、定期的に連絡会議やワークショップを行う他にも、避難所生活や日頃の備えの重要性を伝えるために、パネルや映像、防災用品などを用いた企画展を実施したり、町内での防災説明会や学校での防災学習などさまざまな活動をしています。また、戸建ての自治会では、独自に向こう三軒両隣の「おとなり班」を組織し、素早い安否確認と初動対応がとれるような工夫をしています。こうした「ソフト防災」の取り組みを積み重ねることで、地域防災力の向上に努めています。



### 「放置空き家・空き地ゼロの快適な町内会づくり」

松ヶ丘中学校区町内自治会連絡協議会 石川和利さん  
松ヶ丘中学校区町内自治会連絡協議会では、放置空き家・空き地をなくし、地域の美観を高め、台風等の災害時の倒壊、火災を防ぐことを目的に空き家BANKという事業を実施しています。松ヶ丘町・仁戸名町・大森町・星久喜町の一部の計3,400世帯のうち、空き家・空き地は約50~100世帯以上とされていて、うち50件の実態調査を目標としています。調査手順としては、まず近隣にチラシを回覧し空き家アンケート調査と謄本を取得しての所有者調査を実施、その後、放置空き家の所有者に伐採・ゴミ処理を督促。空き家BANKに登録してもらった後、伐採・ゴミ処理などを実施、または専門家への橋渡しをします。その結果、43世帯の空き家の管理、活用に成功しています。

